

国  
語

問題冊子

注意事項

試験開始の合図があるまで、この冊子を開けないこと。

- 1 この冊子の本文は11ページまでである。印刷の不明な箇所、ページの脱落などがあった場合は申し出ること。
- 2 解答は、問題ごとに、答案用紙(別紙)の所定の欄に記入すること。
- 3 答案用紙は、その一、その二、の二枚である。それぞれに、受験番号と氏名を記入すること。

記入例

受験 番号	氏名
1	大塚 茶織
2	
3	
4	
5	

- 4 答案用紙の解答欄上部の点線枠内には何も記入しないこと。
- 5 この問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。

1

次の文章を読んで、問(一)～(七)に答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

(小川さやか他著『所有とは何か——ヒト・社会・資本主義の根源』により、一部省略・改変して用いた。)

#### 注

- インフォーマル経済―法令上の保護や規制を受けていない非公式な経済活動。
- アルジュン・アパデュライ―Arjun Appadurai(一九四九〜)。インド出身のアメリカの人類学者。
- イゴール・コピトフ―Igor Kopytoff(一九三〇〜二〇一三)。アメリカの人類学者。
- マルセル・モース―Marcel Mauss(一八七二〜一九五〇)。フランスの社会学者、人類学者。
- タマティ・ラナイピリ―Tamati Ranaihiri(生没年未詳)。ニュージーランドの先住民。
- 松村圭二郎―一九七五〜。日本の人類学者。
- 遊休資産―事業内容の変更等の理由で利用されていない資産。
- フィッシャー―Mark Fisher(一九六八〜二〇一七)。イギリスの批評家。引用は『資本主義リアリズム』の一節。

問(一) 傍線(1)「そのモノにまつわるさまざまな関係性が埋め込まれている」とあるが、ここでいう「関係性」とはどのようなものか説明せよ。

問(二) 傍線(2)「『譲渡不可能』な贈り物」について、なぜ不可能なのか説明せよ。

問(三) 傍線(3)「身体のかなかに閉じ込められた自己」とあるが、この場合の「自己」とはどのようなものか、本文の趣旨にそって説明せよ。

問(四) 傍線(4)「タンザニアのインフォーマル経済従事者も同じように矛盾を往還し、その間で解を探っている」とあるが、どのような「矛盾」を往還しているのか説明せよ。

問(五) 傍線(5)「資本主義経済の中で生きていくためにこそ、自身の人格が宿るような贈与をし、自己の一部を身体の外側へと届け、資本主義経済で承認される自他の区別とは違う形で自己を確立する余地を広げておく必要がある」とあるが、筆者がこのように述べる理由を説明せよ。

問(六) 傍線「所有しても所有しなくてもよい社会の糸口を探っていくことがこれからの課題だ」とあるが、現代社会において所有という概念に変質は生じているだろうか。これに関連する具体例を挙げて、あなたの考えを述べよ。字数は三百字程度とする。

問(七) 傍線(a)～(e)の片仮名を漢字に直し、漢字は読みを平仮名で記せ。

大井三位は、兵衛の督（兵衛府の長官）で宰相もつとめていたが、酒乱癖があり、宮中で乱酔したことにより官職を解かれ、北の方と姫君を連れて都の郊外で引き籠もって暮らしている。そのような三位のことを、親友の右大臣は常に気に掛けている。以下の文章を読んで、問(一)～(五)に答えよ。

今年筑紫の帥か闕けたれば、いかでこの君をとおほして、「帝には我よきに奏し侍らん。御年も今盛りなるを、ひたぶるに世を思ひ捨て給ふらんことは、ゆめゆめあるまじきことなり」とて、たびたびこしらへ聞こえ給ふ。「一たび二たびこそあらめ、昔を忘れぬ御心より、かく切にのたまひわたるを、人の御心をも知らず顔に、我が思ふ心のみ立てんは、かへりて心浅きわざなり。まして、男子世にあらんに、己を知る人あらざらんをりこそ、蓬が下に空しく朽ちも果てめ、志をも立てて、身をも起こしつべき時至れるを、いかで徒らに過ぐすべき事かは。今は大臣の御心にそむかじ」<sup>(a)</sup>とのたまへば、「かく世離れたる窓のうちに、さうざうしく明かし暮らさんよりは、花やかなる世を経て、賑はしき月日を送り迎へんこそ、いふかひあるわざに侍らめ」とて、北の方も喜び給ひて、内々にその御心まうけなどあるを、姫君は一人御心ゆかぬやうにぞおはすめる。<sup>(b)</sup>さるは、住みなれし都をふりすてて、千里の空にあくがれんことを心細くおほすにやとて、さまざま言ひ慰め給へば、「心づくしの海は遥かなりとも、御辺り離れず伴はれ奉らんには、何か憂き事の侍らん。また時いたりて、御身の世に出で給はんは、誰も誰も願はしきすぢにて、いと嬉しきものから、ただひとつ安からず思ひ給へらるることの侍るを、聞こえではえあるまじけれど、言ひいでんもさすがにて、心のうちにのみなん思ひ続け侍る。そもそもこたびの御つかさは、おほかたの受領の、品卑く事狭きたぐひとは異にて、つかさづかさの上に立ち給ひて、万の事執り総ね給はんには、おほかの人々、ただ一所にこそなびき奉るべきを、酒にのみ御心よせ給はば、誰もうへにはそむきまゐらせずとも、したにははたいかでかよく従ひ奉るべき。しか侍らんには、ゆくりなく御身の咎め負ひ給ふべきふしも出でまうでこずやは侍るべき。今より堅くこの御すさみとどめ給はばこそあらめ、もしとどめ給はざらんには、このつかさ辞し給ふぞ後ろ安きわざに侍るべき」<sup>(c)</sup>とて、押し立ちてのたまふ。<sup>(d)</sup>

（『竺志船物語』により、一部改変して用いた。）



注 ○筑紫の帥―太宰府の長官。 ○この君―大井三位を指す。

○我よきに奏し侍らん―私(右大臣)が良いように申し上げましょう。 ○御つかさ―筑紫の帥の職を指す。

問(一) 傍線(1)はどのようなことを言っているのか説明せよ。

問(二) 傍線(2)を現代語訳せよ。

問(三) 傍線(3)を現代語訳せよ。

問(四) 傍線(4)は、なぜそのように言っているのか説明せよ。

問(五) 二重傍線(a)～(c)について、文法的に説明せよ。

(例)受身の助動詞「らる」の連体形

3

次の文章を読んで、問(一)～(四)に答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

（『文章軌範』李文叔「書洛陽名園記後」による）

## 注

- 洛陽―地名。中国の古都。
- 襟喉―急所。大切なところ。
- 候―きざし、しるし。
- 公卿貴戚―高官高位の人と貴族の親類。
- 東都―洛陽の別称。
- 池塘―池のまわりの土手。
- 丘墟―荒れはてた遺跡。
- 焚燎―焼く。
- 大夫―広く官位を有する者をいう。
- 嶠岬―嶠山と岬山。
- 秦隴―中国西部の地名。
- 趙魏―中国北部の地名。
- 走集―交通の要所。
- 貞観・開元―唐の元号。
- 開館列第―邸宅を建て連ねる。
- 走集―交通の要所。
- 邸―助数詞。
- 五季―唐末に興った五つの王朝。
- 蹂躪―踏みにじり、蹴立てる。
- 高亭大榭―立派なあずまやとたかどの。
- 園囿―庭、庭園。
- 徒然―無意味なこと。
- 治忽―治乱。

問(一) 傍線(1)「方」、(2)「俱」、(3)「已」の読みを記せ。

問(二) 傍線(ア)「天下当無事則已、有事則洛陽必先受兵」を訳せ。

問(三) 傍線(イ)「忘天下之治忽、欲退享此、得乎」をすべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

問(四) 本文に基づき、天下の治乱と洛陽の園囿の興廢との関係についてまとめ、文章の趣旨を説明せよ。